

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
73021	3	前期	選択	1	30
授業科目名 (英文)	解剖生理学演習 (Seminar in Anatomy and Physiology)				
担当教員名	高野 海 哉				
授業の概要及び到達目標					
概要 1 年次に開講した「体の仕組みと働きⅠ・Ⅱ」よりも、さらに高度な内容を学ぶ。身体のバイタルサイン測定や肺機能測定など生理学的な測定や観察、また、消化器官の解剖学的・組織学的な観察を通して、さらに深い解剖生理学的な知識を演習を通して学ぶ。					
到達目標 解剖生理学に関する演習・実験・観察に積極的に参加することを通して、人体を科学的にとらえて人体に関する知識を主体的に身に付けることができる。 演習後に提出するレポート作成を通して、正常な身体の構造と機能を理解し、その知識を用いて、論理的に考察をすることができる。					
準 備 学 習 等					
1 年生で履修した「体の仕組みと働きⅠ・Ⅱ」の内容を十分に理解して演習に臨むこと。					
成績評価の方法	期末試験：50％ レポートなど提出物：50％				
テキスト	・配布するレジュメ ・1 年生で履修した「体の仕組みと働きⅠ・Ⅱ」の講義テキスト ・草間朋子・高野海哉・川岸久太郎 著，（基本を学ぶ看護シリーズ 2）からの仕組みと働きを知る，東京化学同人，2016. 6				
参考図書	・坂井建雄他 著，「系統看護学講座 専門基礎① 解剖生理学」，医学書院 ・林正健二編，「ナーシンググラフィカ① 解剖生理学」，メディカ出版 ・島田達生他 監訳，「ロス&ウィルソン 解剖生理学」，西村書店 ・片桐康雄他 監訳，「ヒューマンボディ 原著第 3 版」，エルゼビアジャパン ・松村譲児 著，「臨床につながる解剖学イラストレイテッド」，羊土社 ・佐藤昭夫他 著，「人体の構造と機能（第 3 版）」，医歯薬出版 ※これらの図書はすべて五反田図書館に蔵書あり。				

備 考	・本科目は「体の仕組みと働きⅠ・Ⅱ」の補講的な内容ではないことに留意する。欠席した場合の補習は行わない。解剖生理学的な内容をさらに深く学びたいという意欲があり、かつ、欠席せずに毎回出席できる学生の受講を望む。 ・オフィスアワーについては、看護学科「オフィスアワー」の項目を参照のこと。いつでも質問などには対応します。 ・本科目は選択科目であり、必修科目として設定されている解剖生理学的な知識よりもさらに内容を深める科目である。履修者各々が各看護領域の知識や技術に関連させる努力が必要である。 ・提出されたレポートは添削後返却する。内容が不十分な場合は、修正したうえで再提出を求める場合がある。
授 業 計 画	
第1回：本科目のガイダンス 演習を行う上で必要な解剖生理的知識の確認 第2・3回：人体の構造に関する演習 ・骨格標本の観察を通して、人体構造の特徴を学ぶ。 第4・5回：循環器に関する演習 ・心音の聴取、脈拍の触知を通して、心臓の働きの特徴について学ぶ。 ・血圧の測定を通して、血圧の特徴と意義について学ぶ。 第6・7回：循環器に関する演習② ・運動負荷など、身体に負荷をかけた際の血圧・脈拍・心電図を測定し、安静時との差異をとらえ、その原因・理由について考察する。 第8・9回：呼吸器に関する演習（第7～10回） ・スパイロメーターを用いた肺機能の測定により、呼吸運動の特徴を学ぶ。 - また、体位による肺機能の変化について演習を通して学ぶ。 第10・11回：循環器と呼吸器系の連関に関する演習② ・運動負荷時などにおける血圧・脈拍・心電図・酸素飽和度を測定し、運動負荷などによる身体への負荷による循環器系・呼吸器系の変化における連関について学ぶ。 第12・13回：消化器系に関する演習 ・腸音の聴取を通して、消化管運動の特徴を学ぶ。 第14・15回：まとめ ・人体模型を用いて、各器官・臓器の立体的な配置とつながりについて学ぶ。 ・レポート返却および解説 など ※準備などの都合により、内容を変更することがある。	